

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10685001				
授業名	社会福祉論	形態	講義	単位	2
担当教員	本多 敏明				
開講学期	2024年度 前学期	曜日・時限	金曜2限		
授業目的	誰もが社会福祉と無関係ではない。なぜなら、誰もが日々関わるさまざまな社会関係のなかで生じた「関係の不調」を社会福祉は対象とするからである。社会福祉分野で注目される考え方の基礎的な理解に込められた人間観・社会観を学習する。さらに受講生が自らの「コミュニティ政策学」の視点を育てるために、一助とすることも合わせて目的とする。				
授業内容	(1) 社会福祉のしくみ、(2) 障害の社会モデル、(3) 伴走型支援、(4) 「当事者研究」、(5) 社会関連諸制度の概要(年金保険、介護保険、医療保険等)を理解する				
到達目標	①社会福祉の人間観・社会観を理解する。②自らも社会福祉と無関係ではないことを理解する。③「コミュニティと社会福祉」に関する自分なりの問題意識を育む。				
ディプロマポリシーとの関連性	<コDP2-(1)> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。				
授業形態	基本的に講義形式で行うが、その中にアクティブラーニングの手法を導入し、福祉福祉の諸課題についての学生の主体的参加や能動的学習を重視した授業を実施する。また、DVDやビデオ等の映像資料を参考に、現実の社会問題について学び、課題や解決策をレポートする。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。				
評価方法	①ほぼ毎回の授業での学びをまとめた「リアクションペーパー」、②7回程度の「小レポート」(事前・事後学習)の質により総合的に評価する。なお、出席に関して、(1)学生証を忘れた場合のメモによる出席は2回まで(3回目からは不可)。また基本的に6回以上欠席者のみ15回終了後にデータを「出席」に修正。(2)本人の出席カードタッチミスや確認漏れによる「出席」修正はできない				
評価基準	小レポート100点(20点×3回+10点×4回)				
試験・レポート等のフィードバック	「小レポート」は講義内容理解を深める例を匿名で取り上げ適宜授業内でコメントする				
注意事項及び履修条件	事前・事後学習をおこなうこと。参考文献を精力的に読んでみる。				
S:100~90、A:89~80、B:79~70、C:69~60、D:60未満					

第1回					
事前学習	シラバスを読み15回の授業の構成について理解しておく。				
授業内容	オリエンテーション。受講にあたっての確認事項および講義体系について学生と教員が意思疎通する。また本科目の対象範囲のポイントを理解する				
事後学習	授業資料を読み直し、授業の振り返りを行なう				
参考文献	稲沢公一・岩崎晋也(2019)『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣(序章)				
第2回					
事前学習	身の回りの「関係に基づく援助」の例を2~3つ挙げる				
授業内容	社会福祉の原論的理解。「関係がない(と思われる)他者を援助するしくみ」がなぜ必要か、社会福祉の必要性を理解する				
事後学習	講義資料・内容を振り返り、ポイントをまとめる				
参考文献	岩崎晋也(2018)『福祉原理』有斐閣(はじめに、第1章)				
第3回					
事前学習	家族以外に援助を提供できるしくみにはどのようなものがあるか例を2~3つ挙げる				
授業内容	生活を支えるしくみ(家族・市場・福祉サービス)のそれぞれの特徴や原理(贈与・交換・再分配)を理解する				
事後学習	講義資料・内容を振り返り、ポイントをまとめる				
参考文献	稲沢公一・岩崎晋也(2019)『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣(第4章)				
第4回					
事前学習	障害の社会モデルの考え方をまとめる				
授業内容	障害に関する医学モデルから社会モデルへの転換の意味を理解する。障害者差別解消法のポイントを理解する				
事後学習	実際に自分の日常生活(ボランティア活動やアルバイト等含む)で障害者と関わるさいに求められる合理的配慮の具体例をまとめる				
参考文献	石川准・長瀬修(1999)『障害学への招待』明石書店				
第5回					
事前学習	「この子らを世の光に」という言葉の出自と意味をまとめる				
授業内容	糸賀一雄の「横の発達」の考え方、「この子らを世の光に」という言葉の意味を理解する				
事後学習	「この子らを世の光に」の人間観・社会観について感じたことをまとめる				
参考文献	糸賀一雄(2003)『復刊 この子らを世の光に』NHK出版				
第6回					
事前学習	伴走型支援の考え方をまとめる				
授業内容	主に生活困窮者支援における「伴走型支援」の意味を理解する。「問題解決型支援」との違いを理解する				
事後学習	「ハウス」と「ホーム」の意味の違いを400字程度にまとめる				
参考文献	奥田知志・原田正樹編(2021)『伴走型支援』有斐閣				
第7回					
事前学習	これまでの内容のポイントをまとめる				

授業内容	前半まとめ。これまでの内容を踏まえて、社会福祉が本人と周囲との関係を対象とすることの難しさ と大切さを理解する
事後学習	自分の「関係」の「健康診断」をおこなって400字程度にまとめる
参考文献	本多敏明（2024）『「排除」の構造とコミュニケーション論的「包摂」』風鳴舎
第8回	
事前学習	「べてるの家」および「当事者研究」の概要をまとめる
授業内容	「べてるの家」で実践されている「当事者研究」という支援方法論の意味を理解する
事後学習	講義資料・内容を振り返り、ポイントをまとめる
参考文献	浦河べてるの家（2002）『べてるの家の非援助論』医学書院。熊谷晋一郎編（2017）『みんなの当事者研究』金剛出版
第9回	
事前学習	自身の「自己病名」を付け（浅く）、その対処法を考える（浅く）
授業内容	「当事者研究」を自分なりに行ってみて、「当事者になる」と「回復」のつながりを理解する
事後学習	【締切が通常より早いので注意】授業内容をもとに自身の「自己病名」を付け（浅く）、その対処法 を考える（浅く）
参考文献	向谷地行良（2009）『技法以前』医学書院。浦河べてるの家（2005）『べてるの家の「当事者研究」』医学書院
第10回	
事前学習	授業内容をもとに自身の「自己病名」を付け（浅く）、その対処法を考える（浅く）
授業内容	みんなの「自己病名」（浅く）。提出された「自己病名」と対処法を学び合う。他者の「苦勞」と、 日々の小さな「工夫」を知る
事後学習	他の受講生の「自己病名」と対処法で印象に残った内容をまとめる
参考文献	浦河べてるの家（2002）『べてるの家の非援助論』医学書院。熊谷晋一郎編（2017）『みんなの当事者研究』金剛出版
第11回	
事前学習	自身が日課として継続できそうな表現・表出（アウトプット）を考え出す
授業内容	「課題当事者」による「自分の薬をつくる」方法や有効性を理解する（アウトプットの必要性に気づくこと）
事後学習	自身が日課としてできそうな表現・表出を考え、実際に試してみる
参考文献	坂口恭平（2020）『自分の薬をつくる』晶文社
第12回	
事前学習	これまでの内容をポイントをまとめる
授業内容	後半まとめ。後半の内容を踏まえて、社会福祉は本来誰もが無関係ではないという点について理解する
事後学習	改めて自分の「関係」の「健康診断」をおこなって400字程度にまとめる
参考文献	本多敏明（2024）『「排除」の構造とコミュニケーション論的「包摂」』風鳴舎
第13回	
事前学習	公的な年金・医療・介護保険制度の自身の保険料の金額や納付実績をまとめる
授業内容	社会保険の諸制度（年金、医療、介護）の概要（保険者と被保険者、負担と給付の関係、保険料額、 財源等）を理解する
事後学習	講義資料・内容を振り返り、ポイントをまとめる
参考文献	椋野美智子・田中耕太郎（2020）『はじめての社会保障 第17版』有斐閣アルマ（第1・3・4章）
第14回	
事前学習	社会福祉を必要とする人が増大する現状についての率直な印象をまとめる
授業内容	社会福祉の課題が増大する現在の状況を「社会福祉の失敗」と捉える見方とは異なる見方はないか、 そうした見方がこれからの社会のあり方にとっていかなる意味を持つか考える
事後学習	「社会福祉と地域コミュニティ」のありようを考え、いまなぜ「コミュニティ政策学」が求められる かその理由を800字程度にまとめる
参考文献	淑徳大学コミュニティ政策学部編（2013）『コミュニティ政策のはなし』成文堂
第15回	
事前学習	全体を振り返り「社会福祉と地域コミュニティ」の関連についてまとめる
授業内容	全体のまとめとして「社会福祉と地域コミュニティ」のありようを改めて考え、自らができることを まとめる
事後学習	授業内容を振り返り400字程度にまとめる
参考文献	淑徳大学コミュニティ政策学部編（2013）『コミュニティ政策のはなし』成文堂
※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。	
ディプロマポリシー	<コDP-2> 【コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】 コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。 <コDP2-(1)> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。 <コDP2-(2)> 講義科目で学んだ専門的な知識とサービスラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。 <コDP2-(3)> 地域社会の多様な場において、コミュニティ形成の中核を担う職業人としての態度・志向性を持っている。